



宮地エンジニアリンググループ株式会社

2024年3月期第2四半期 決算説明会

2023年11月22日

I . 2024年3月期第2四半期決算	P.2
II . 2024年3月期業績予想	P.14
III . 中期経営計画の進捗	P.17
IV . 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について	P.33
V . Appendix	P.41

I .2024年3月期第2四半期決算



2024年3月期第2四半期トピックス

- ◆ 各種政策等の効果により緩やかな回復が期待されているものの、世界的な金融引き締め等に伴う影響や中国経済の先行きなどが懸念されている
- ◆ 国内公共投資の予算は底堅く推移しており、道路橋・鉄道橋等の橋梁事業についても一定の予算規模が確保されている
- ◆ 高速道路有料化を財源とする道路整備促進などを目的とした改正道路整備特別措置法が施行
- ◆ 当業界では鋼橋上部工事や建築工事において大きな事故が発生しており、工事の安全対策の重要性について改めて強く認識し、対策を徹底

2024年3月期第2四半期トピックス

- ◆ 当社の受注高は、高速道路の大規模更新や大型案件の受注により前年比12.7%増
- ◆ 売上高は、大規模更新工事や大型案件等の工事が順調に進捗し予想を若干上回る
- ◆ 営業利益と経常利益についても、採算性向上や経費削減等により期首予想より改善
- ◆ 東京証券取引所からの要請に基づき2023年8月9日に開示した「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」を市場よりご評価いただき、株価が大幅に上昇してPBRは1倍を超える

2024年3月期第2四半期決算サマリー

手持ち工事の順調な進捗、採算性向上・経費削減により、期首予想と比較して上期の売上高・利益額・利益率は改善

(百万円)

	22/3期2Q	23/3期2Q		24/3期2Q	
	実績	実績	前年同期比	実績	前年同期比
売上高	26,318	27,951	6.2%	31,694	13.4%
営業利益	2,755	3,184	15.6%	2,951	▲7.3%
経常利益	2,852	3,304	15.9%	3,089	▲6.5%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	1,539	1,911	24.1%	1,776	▲7.1%
受注高	28,085	30,425	8.3%	34,287	12.7%
受注残高	90,083	96,760	7.4%	103,250	6.7%

主要な売上工事(1)

新設関連工事

海老江工区鋼桁および鋼製橋脚工事
阪神高速道路株式会社



新名神高速道路
吉祥寺川橋他2橋(鋼上部工)工事
西日本高速道路株式会社



ふさのくに観光道路工事
(仮称黒部川新橋上部工その2)
千葉県



主要な売上工事(2)

大規模更新・保全関連工事



東品川栈橋・鮫洲埋立部更新工事
首都高速道路株式会社



佐世保高架橋拡幅工事 西日本高速道路株式会社



吹田JCT～中国池田IC間橋梁更新工事
西日本高速道路株式会社

主要な売上工事(3)

鉄道関連、大空間・特殊建築物、沿岸構造物工事



品川駅構内環状第4号線交差部新設他
鹿島建設株式会社

虎ノ門麻布台再開発A街区
清水建設株式会社



ボートレース江戸川
浮消波堤製作・設置工事
五洋建設株式会社

主要な受注案件の概要

当社グループの主要な受注案件

第二京阪道路 門真高架橋東(鋼上部工)設計・工事

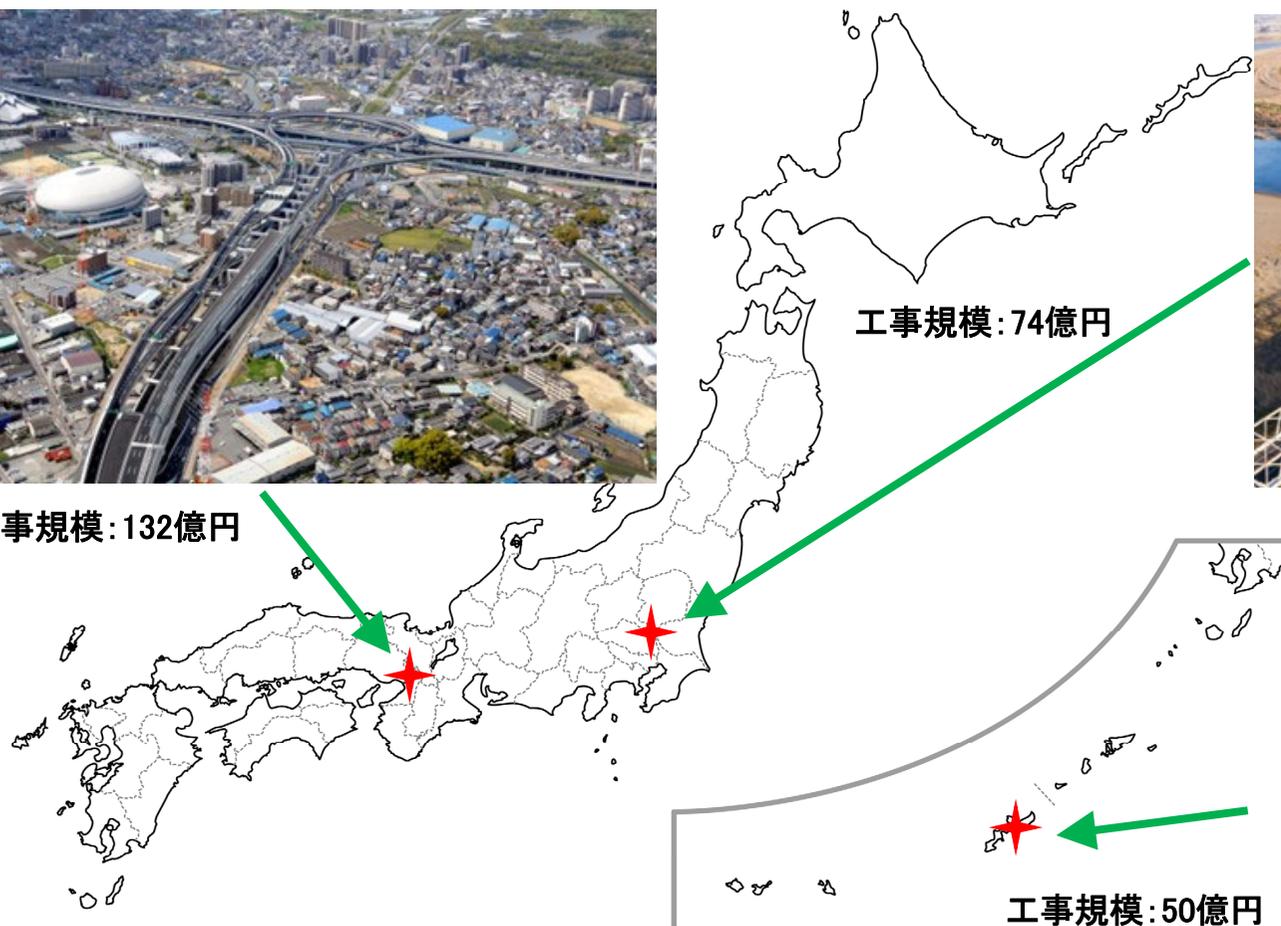


工事規模: 132億円

東北自動車道 利根川橋耐震補強工事



工事規模: 74億円



工事規模: 50億円

令和5年度恩納BP5号橋鋼上部工(下り)工事 他

セグメント別実績

宮地エンジニアリングは前年同期比増収減益
エム・エムブリッジは前年同期比増収増益

(百万円)

	22/3期2Q	23/3期2Q		24/3期2Q	
	実績	実績	前年同期比	実績	前年同期比
売上高	26,318	27,951	6.2%	31,694	13.4%
宮地エンジニアリング	16,011	16,039	0.2%	18,991	18.4%
エム・エムブリッジ	10,493	11,896	13.4%	12,720	6.9%
その他	2	1	▲12.9%	2	17.8%
営業利益	2,755	3,184	15.6%	2,951	▲7.3%
宮地エンジニアリング	1,620	2,242	38.5%	1,564	▲30.2%
エム・エムブリッジ	1,148	932	▲18.8%	1,384	48.4%
その他	687	1,022	48.8%	1,192	16.6%
受注高	28,085	30,425	8.3%	34,287	12.7%
宮地エンジニアリング	14,399	17,450	21.2%	19,916	14.1%
エム・エムブリッジ	13,684	12,973	▲5.2%	14,369	10.8%
その他	2	1	▲12.9%	2	17.8%
受注残高	90,083	96,760	7.4%	103,250	6.7%
宮地エンジニアリング	45,693	54,408	19.1%	58,187	6.9%
エム・エムブリッジ	44,398	42,448	▲4.4%	45,018	6.1%
その他	—	—	—	—	—

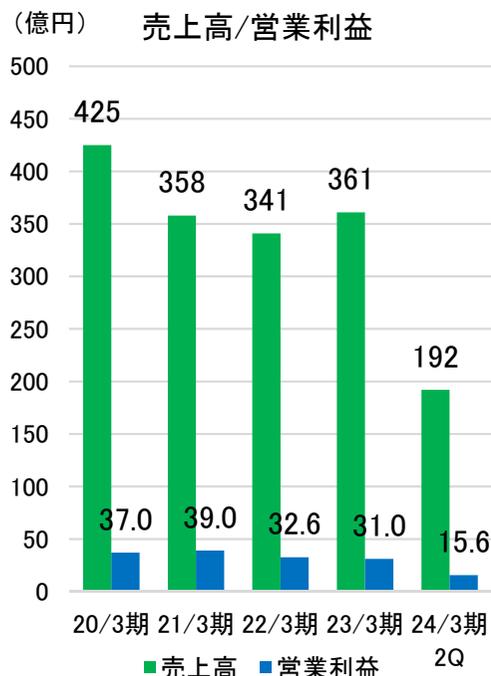
セグメント別実績(2)

宮地エンジニアリング

受注高については、NEXCO西日本の門真高架橋東や成合第二高架橋等の大型案件を受注して199.2億円となり、受注残高も580億円を超えました

売上高は、手持ち工事が順調に進捗し、192.1億円となりましたが、損益は、エネルギーや資材価格などの大幅な上昇による影響を受けて下がり、営業利益は15.6億円、経常利益は17.0億円となりました

下半期に向けて、さらなる受注の拡大と収益向上に努めます



今後の取り組み

新設事業から保全事業まで、バランスの良い受注を確保

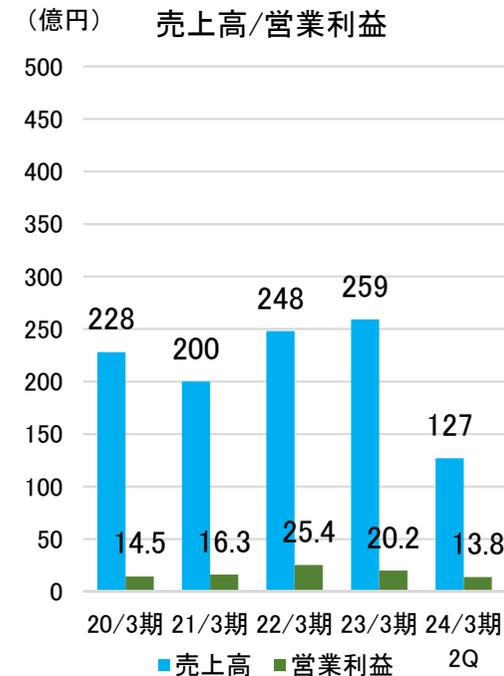
経営トップ自らの発信や率先垂範により、持続的成長を目指す企業の根幹をなす従業員の意識改革に取り組んでいます。こうした意識改革をはじめ、業務効率の向上、千葉工場改革プロジェクトによる生産性の向上、固定費・変動費の削減を進めるほか、技術開発の推進による企業価値向上と開発商品の拡販による収益拡大を図っていきます。また、リクルート活動の強化と技術交流により人材の確保・育成を図り、経営基盤の強化に努めます

エム・エムブリッジ

受注高については、NEXCO西日本の杣川橋やNEXCO東日本の利根川橋耐震補強工事等の大型案件を受注して143.7億円となり、受注残高も450億円を超えました

売上高は、手持ち工事が順調に進捗し、127.1億円となり、損益につきましても順調に推移して、営業利益は13.8億円、経常利益は13.9億円となりました

引き続き過去最高の受注・売上高を目指すとともに、さらなる収益向上に努めます



今後の取り組み

新規橋梁プロジェクトと高速道路大規模更新工事への参画

新設および保全市場ともに大規模・高難度工事が増えていくことから、高度な技術力と豊富な経験・実績を持つ当社の強みを十分に活かせる事業環境にあると考えており、積極的に参画を進めていきます。一方で、建設業界全体が人材不足であり、働き方改革への対応も必要なため、現場業務の負荷軽減を重視したICT活用を行っていきます。また、大規模・高難度工事での活用を視野に入れた技術開発も進めていきます

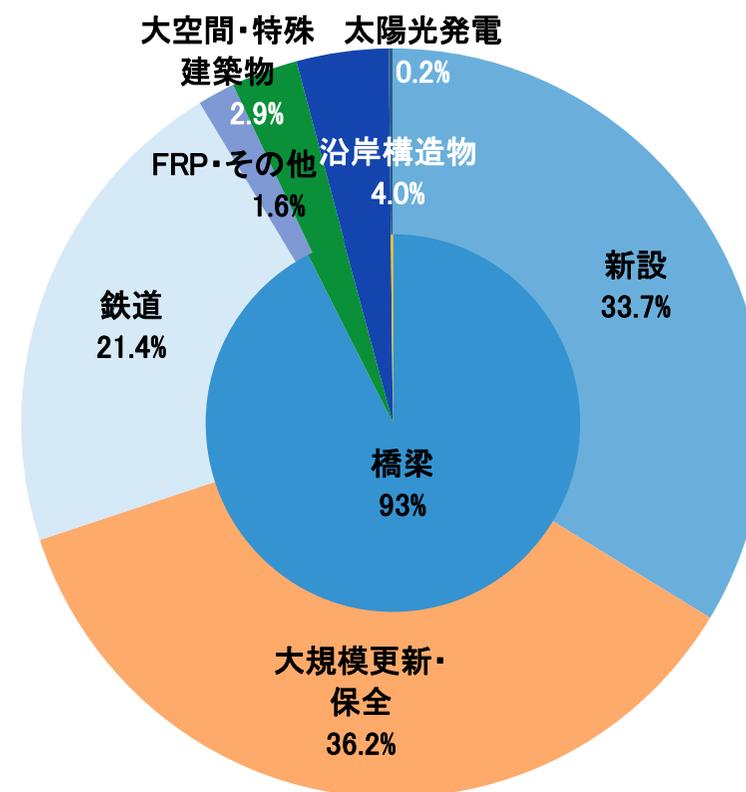
事業別実績

業界トップクラスの橋梁総合エンジニアリング企業

長大橋含む鋼製橋梁、タワー・ドームなど大空間構造物、沿岸構造物の設計・製作・建設計画・施工を一貫して手掛ける

橋梁	新設	大規模プロジェクトを含む新設橋梁の設計・製作・施工計画・現場施工
	大規模更新・保全	高速道路の構造物を最新の技術を用いて建設当初と同等またはそれ以上の性能や機能を回復させる大規模更新工事と、既設橋梁の補修、拡幅、災害復旧、撤去、架け替え工事などの設計・製作・施工計画・現場施工
	鉄道	高い技術力を必要とする鉄道の渡河橋や跨道橋および跨線橋の設計・製作・施工計画・現場施工
	FRP・その他	FRPを用いた検査路や化粧板などの開発製品や特許技術などに関する販売、業務委託
大空間・特殊建築物	東京スカイツリーなどの高層タワーやエスコンフィールド北海道などのドームの施工計画・現場施工	
沿岸構造物	特殊な設計技術力を必要とする鋼製の沈埋函、ケーソン、ジャケット、浮消波堤などの設計・製作	
太陽光発電	旧工場跡地を活用した太陽光発電事業	

2023年3月期 事業別売上実績比率



貸借対照表、キャッシュ・フロー

自己資本比率は23/3末の56.3%から55.8%とほぼ横ばい

主な貸借対照表の項目

(百万円)

	22/9末	23/3末	23/9末
資産合計	62,971	63,051	66,952
流動資産	43,296	43,185	46,315
固定資産	19,674	19,866	20,636
有形固定資産	12,564	12,968	12,994
無形固定資産	331	372	378
投資その他の資産	6,778	6,524	7,263
負債合計	22,772	21,483	23,188
流動負債	18,407	17,395	18,947
固定負債	4,364	4,087	4,240
純資産合計	40,199	41,568	43,763
株主資本	29,055	29,812	31,043
その他の包括利益累計額	5,444	5,695	6,348
非支配株主持分	5,698	6,059	6,372

四半期純利益計上により営業CFはプラスを維持、有形固定資産取得および配当に充当

主なキャッシュ・フロー計算書の項目

(百万円)

	22/3期2Q	23/3期2Q	24/3期2Q
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,608	3,239	2,132
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲697	▲216	▲377
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲727	▲1,583	▲727
現金及び現金同等物の増減額(▲は減少)	9,182	1,439	1,027
現金及び現金同等物の期末残高	17,699	17,418	14,643

Ⅱ.2024年3月期業績予想



2024年3月期トピックス

- ◆ 海外景気の下振れがわが国の景気を下押しするリスク、物価上昇や金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要あり
- ◆ そのような状況下においても、橋梁事業については、2023年度の発注見通しとして新設関連で2,700億円、大規模更新・保全関連で2,900億円(いずれも当社推定値)と十分な予算が確保されており、今後も改正道路整備特別措置法に基づく2115年までの高速道路有料化を財源とした道路整備の促進などにより、同規模の発注が継続していくことが見込まれる
- ◆ 事業規模約7兆円の大規模更新工事・大規模修繕工事の継続的な発注や、大阪湾岸線西伸部などの高難度ビッグプロジェクトの推進も計画されており、中期的に当社グループが飛躍する事業環境
- ◆ グループ管理体制強化により経営基盤を強固なものとし、経営資源の適切な配分、技術開発やDX活用による生産性向上、人材確保・育成などにより、中期経営計画の達成に努める

2024年3月期業績予想

工事の順調な進捗、採算性向上・経費削減により、売上高・営業利益・経常利益は期首予想より増加見込み
受注についても過去最高の受注高を目指して鋭意活動中

(百万円)

	22/3期	23/3期		24/3期		
	実績	実績	前年比	従来予想	修正予想	前年比
売上高	58,002	60,279	3.9%	69,000	71,000	17.8%
営業利益	5,810	5,128	▲11.8%	6,600	7,100	38.5%
経常利益	5,992	5,374	▲10.3%	6,700	7,000	30.3%
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,406	3,077	▲9.7%	3,500	3,600	17.0%
1株当たり年間 配当金(円) *1	70	70	—	90 <small>(普通配当 80 記念配当 10)</small>	160 <small>(普通配当 150 記念配当 10)</small>	—
自己資本利益率 (ROE)	10.7%	8.9%	—	9.6%	9.9%	—
受注高	63,974	66,650	4.2%	93,300	72,000	8.0%
受注残高	94,286	100,658	6.8%	124,900	101,600	0.9%

*1 2023年10月1日に普通株式1株につき2株の割合をもって分割、1株当たり年間配当金は遡って修正

Ⅲ.中期経営計画の進捗



目指す姿と事業戦略

2026年に 目指す姿

ファブ(工場製作)とエンジ(現場施工)を両輪とし、豊富な実績に基づく高度な技量を備えた日本を代表する
蔦集団を中心とした協力会社を傘下に持つ業界屈指の総合エンジニアリング会社として、グループの連携を
強化すると共に、経営資源の質・量の充実を図り、競争力を強化し、豊かな社会の構築に貢献する大規模工
事への参画により売上と利益を更に拡大することで、持続的成長による企業価値の向上を図る

主要戦略

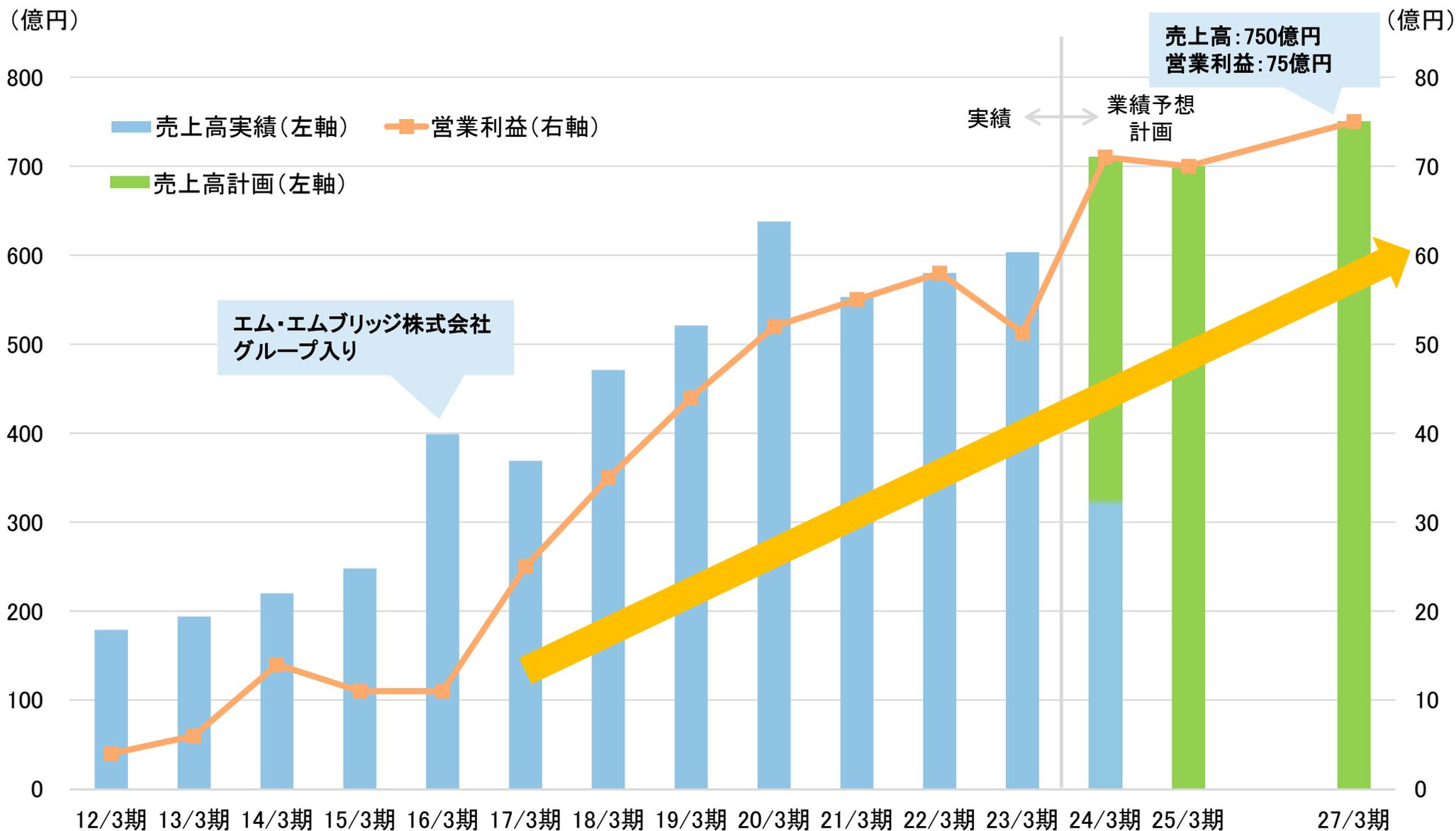
- 1)新設橋梁ビッグプロジェクトへの参画
- 2)高速道路大規模更新工事の取り込み拡大
- 3)民間の高難度工事への対応
- 4)技術開発の強化
- 5)事業拡大・効率化に向けた設備投資
- 6)アライアンス強化
- 7)開発商品の拡販
- 8)ESGへの取り組み

定量目標の進捗

(百万円)

	22/3期	23/3期		24/3期	25/3期	27/3期
	実績	目標	実績	業績予想	当初目標	当初目標
売上高	58,002	65,000	60,279	71,000	70,000	75,000
営業利益	5,810	5,500	5,128	7,100	7,000	7,500
経常利益	5,992	5,500	5,374	7,000	7,000	7,500
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,406	3,000	3,077	3,600	3,800	4,000
自己資本比率	54.0%	55%	56.3%	57.0%		55%
自己資本利益率(ROE)	10.7%	10%	8.9%	9.9%		10%
総資本利益率(ROA)	9.8%	10%	8.6%	10.0%		10%

売上高・営業利益の実績および計画



主要戦略の状況

主要戦略	進捗評価	取組状況	
1)新設橋梁ビッグプロジェクトへの参画	○	大阪湾岸道路西伸部新設橋梁ビッグプロジェクトの必注に向けて、技術提案検討中	<p>質・量共に 経営資源を揃える 当社の強みを 最大限に発揮出来る プロジェクト</p>
2)高速道路大規模更新工事の取り込み拡大	◎	技術提案・交渉方式の複数の大規模更新・保全関連工事において、優先交渉権を獲得して設計対応中 更に複数の案件についても参画するべく技術提案検討中	
3)民間の高難度工事への対応	◎	高い技術力が評価されている民間向け高難度工事（鉄道、大空間・特殊建築物、沿岸構造物関連工事）についても、複数の具体的案件に鋭意取組継続中	
4)技術開発の強化	○	ICT、DX関連会社や各種メーカーとの共同開発を進め、業務改善を推進中	
5)事業拡大・効率化に向けた設備投資	○	物価高騰とコロナ禍の影響を踏まえ、中期経営計画期間(2022～2026)の投資計画を見直し、推進中	
6)アライアンス強化	○	ゼネコンとの異工種JVを組成して応札した複数の大規模更新・保全関連工事において優先交渉権を獲得し、継続して複数案件で応札対応中	
7)開発商品の拡販	○	FRP検査路などの開発商品について、事業計画に基づき順調に拡販対応中	
8)ESGへの取り組み	○	サステナビリティ推進委員会のもとに5つの分科会を設置し、マテリアリティに基づく具体的な目標およびKPIを取り纏め、取組体制を強化中	

施策取り組みの状況

優先交渉権を獲得して設計対応中の大規模工事

道央自動車道 北郷地区橋梁リニューアル工事 実施設計

発注者：東日本高速道路株式会社 北海道支社

契約業者：大成建設・岩田地崎建設・伊藤組土建・極東興和・エム・エムブリッジ

道央自動車道 北郷地区リニューアル工事特定建設工事共同企業体



東北自動車道

仙台宮城インターチェンジDランプ橋工事 実施設計

発注者：東日本高速道路株式会社 東北支社

契約業者：エム・エムブリッジ株式会社・株式会社安藤・間

東北自動車道 仙台宮城インターチェンジDランプ橋工事

特定建設工事共同企業体



新名神高速道路 新治橋他1橋(鋼上部工) 設計・工事(設計業務)

発注者：西日本高速道路株式会社 関西支社

契約業者：エム・エムブリッジ

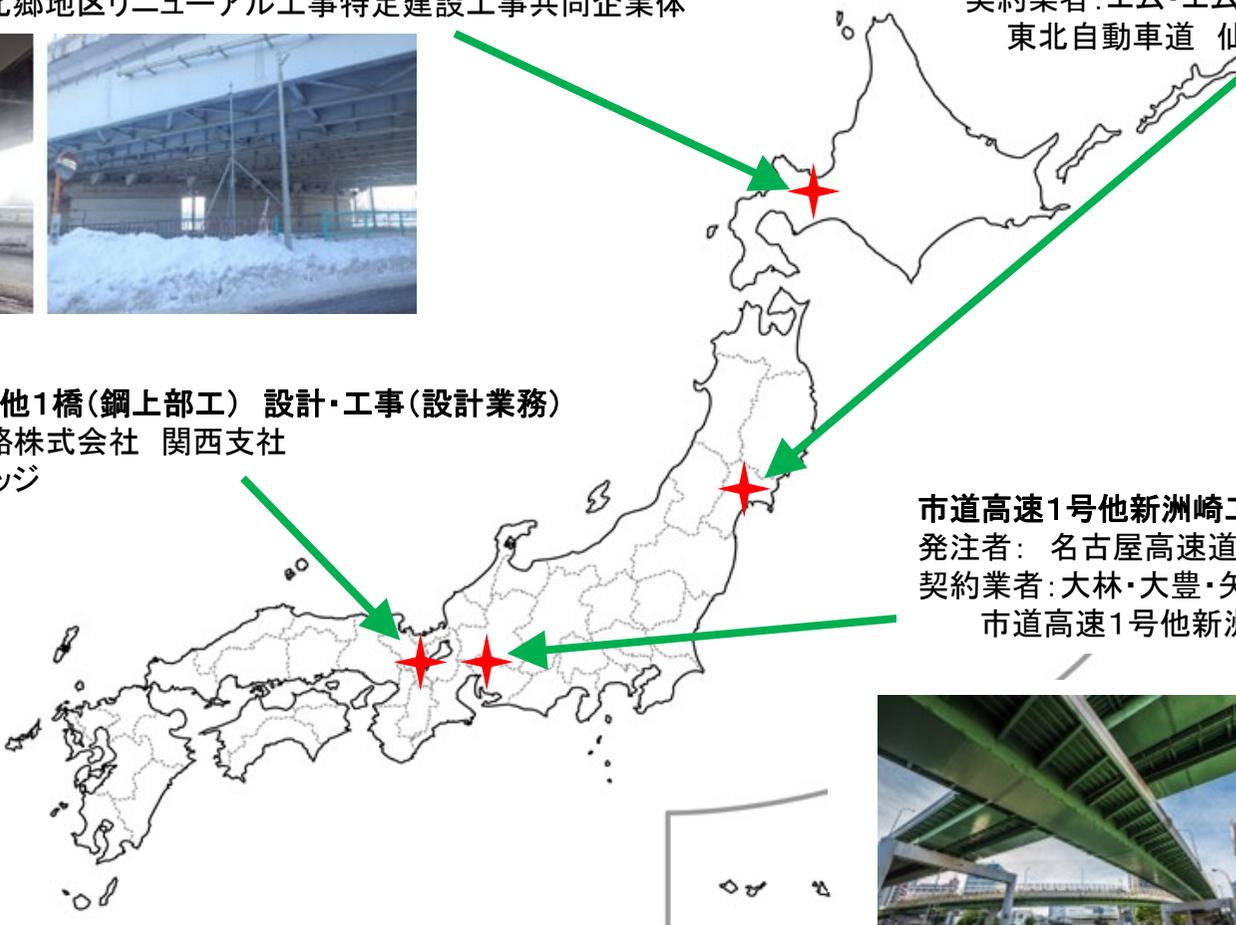


市道高速1号他新洲崎工区改築事業(実施設計)

発注者：名古屋高速道路公社

契約業者：大林・大豊・矢作・川田・MMB・宮地・瀧上・駒ハル

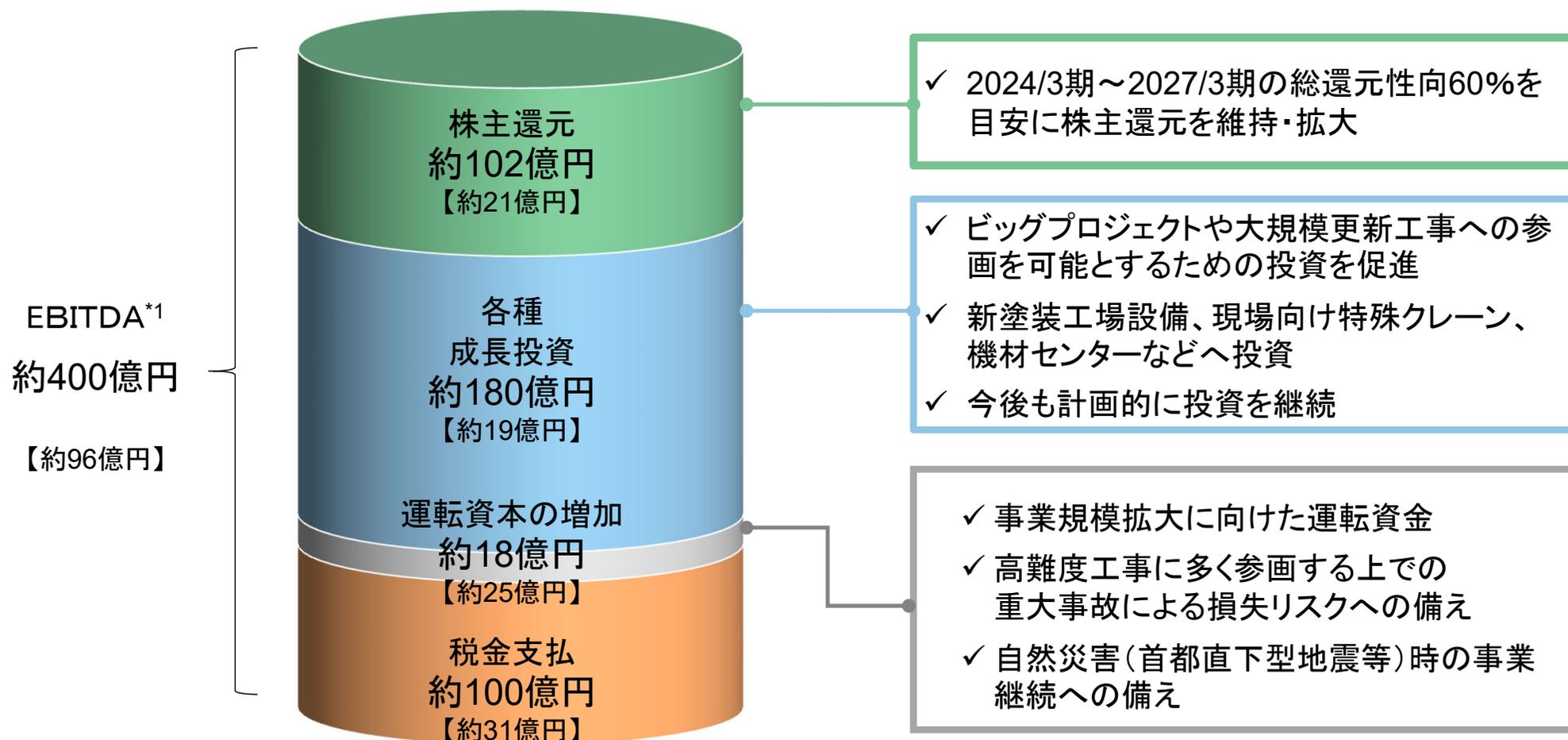
市道高速1号他新洲崎工区改築事業異工種共同企業体



資本戦略

一定の資本拡充および成長投資も確保の上で、株主還元の維持・拡大を図る

2023/3期～2027/3期合計



*1 Earnings Before Interest Taxes Depreciation and Amortization

(注) 【 】内は2023/3期～2024/3期2Qの実績累計

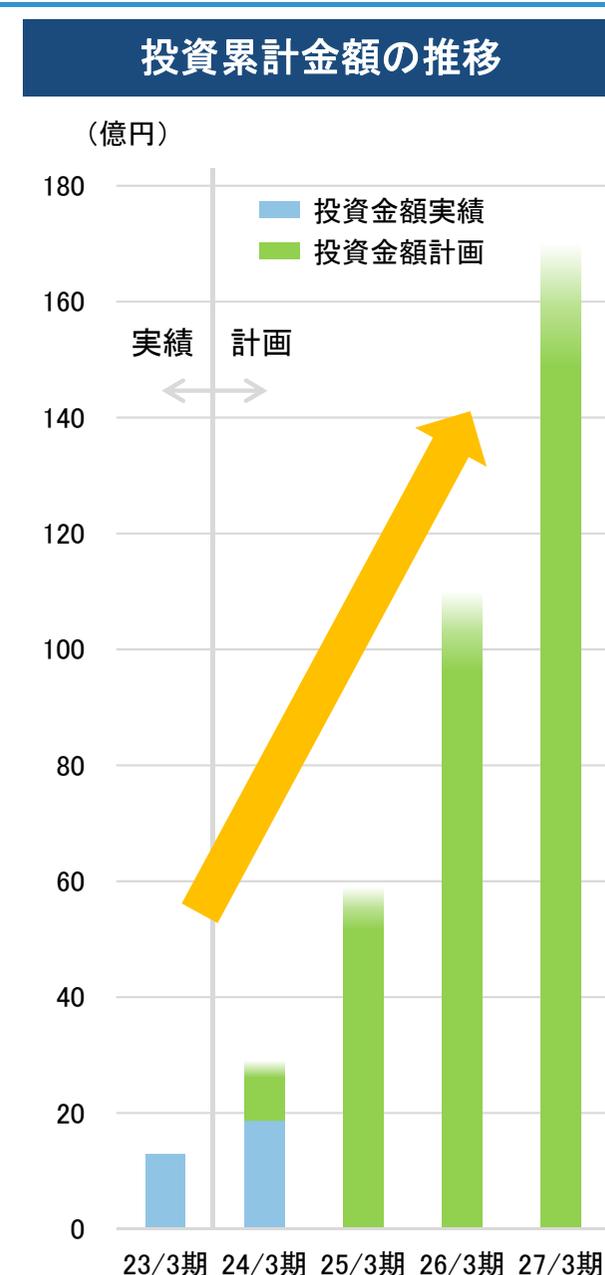
投資戦略(1)

投資戦略の内訳を変更、カーボンニュートラル対応など新規項目を追加、総額としては横ばい

		5年間の 投資見込み	23/3期~24/3期2Q の実績累計	5年間の投資 見込み変更金額
生産能力の効率化・適正化	ヤードの整備・スペース 効率化	5.0億円	0.1億円	1.5億円
	塗装工場再構築	20.0億円	5.6億円	13.0億円
	工場設備の更新・補修・建屋耐震補強	70.0億円	3.0億円	25.0億円
	新事務所棟建設	25.0億円	-	60.0億円
	機材センターの改修	10.0億円	5.5億円	10.5億円
	機材センターの設備更新	20.0億円	2.2億円	17.0億円
	栗橋機材センター保管ヤード見直しの追加	-	-	10.5億円
	兵庫機材センターの移転拡張の追加	-	-	12.5億円
カーボンニュートラル対応	2050年のカーボンニュートラルの実現に向けた具体的な施策の実施の追加	-	-	9.0億円
事業ポートフォリオの拡大・適正化	新規事業開発			11.0億円
総合エンジニアリングの機能強化	技術開発	30~50億円 規模を想定	2.4億円	10~30億円 規模を想定
	M&A			
成長投資合計		180~200億円 規模を想定	18.8億円	180~200億円 規模を想定

投資戦略(2)

		5年間の投資見込み金額	変更の背景
生産能力の効率化・適正化	ヤードの整備・スペース効率化	1.5億円	
	塗装工場再構築	13.0億円	設備の改修計画について見直し
	工場設備の更新・補修・建屋耐震補強	25.0億円	
	新事務所棟建設	60.0億円	収容人数大幅増に加え、物価高騰の影響などを反映
	機材センターの改修	10.5億円	物価高騰の影響を反映するとともに、各機材センターの移転拡張や保管ヤード見直し等を反映
	機材センターの設備更新	17.0億円	工事予定等を反映
	栗橋機材センター保管ヤード見直しの追加	10.5億円	外部機材保管ヤード移転のための計画新規追加
	兵庫機材センターの移転拡張の追加	12.5億円	西日本でのプロジェクトに備えた移転拡張計画新規追加
カーボンニュートラル対応	2050年のカーボンニュートラルの実現に向けた具体的な施策の実施の追加	9.0億円	電動フォークリフトの採用、太陽光発電設備の追加設置、新しい技術開発等の具体的な施策を新規追加
事業ポートフォリオの拡大・適正化	新規事業開発	11.0億円	カーボンニュートラル対応を別枠化
総合エンジニアリングの機能強化	技術開発		
	M&A	10~30億円規模を想定	M&Aを別枠化
成長投資合計		180~200億円規模を想定	



配当政策

成長戦略の実行により、親会社株主に帰属する当期純利益を確保

(百万円)

	22/3期	23/3期		24/3期	25/3期	27/3期
	実績	目標	実績	業績予想	当初目標	当初目標
売上高	58,002	65,000	60,279	71,000	70,000	75,000
営業利益	5,810	5,500	5,128	7,100	7,000	7,500
経常利益	5,992	5,500	5,374	7,000	7,000	7,500
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,406	3,000	3,077	3,600	3,800	4,000
1株当たり年間配当金(円) *1	70	70	70	160 (普通配当 150 記念配当 10)	(170) ^{*2}	(180) ^{*2}

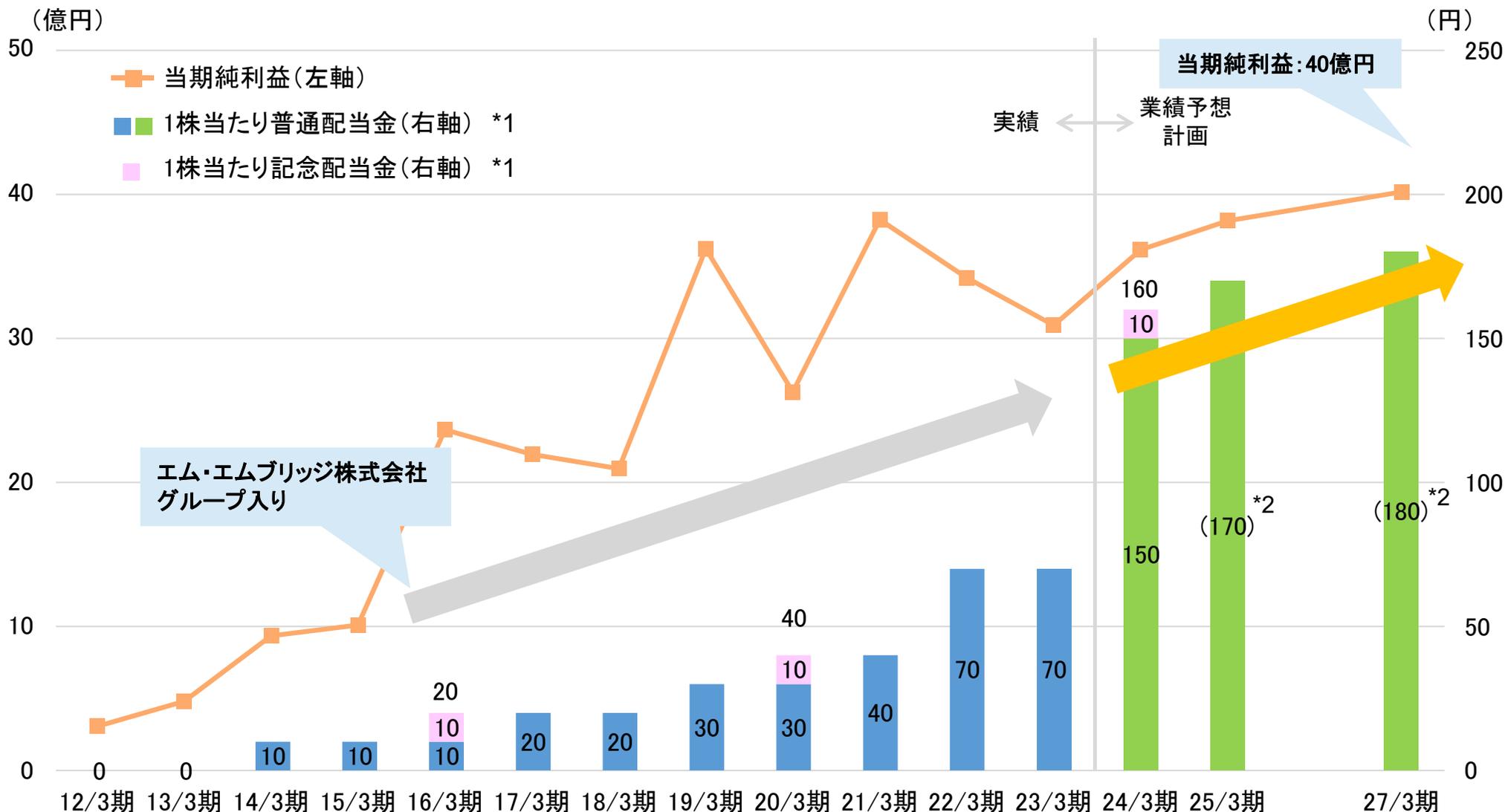
好業績時には機動的な株主還元を実施するなど、
資本効率にも十分留意して自己資本の水準を適切にコントロール

*1 2023年10月1日に普通株式1株につき2株の割合をもって分割、1株当たり年間配当金は分割考慮後に修正
Copyright© 2023 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

*2 2023年8月9日適時開示内容を踏まえて修正

当期純利益と配当金の実績および計画

成長戦略の実行および継続的な配当の維持・拡大へ

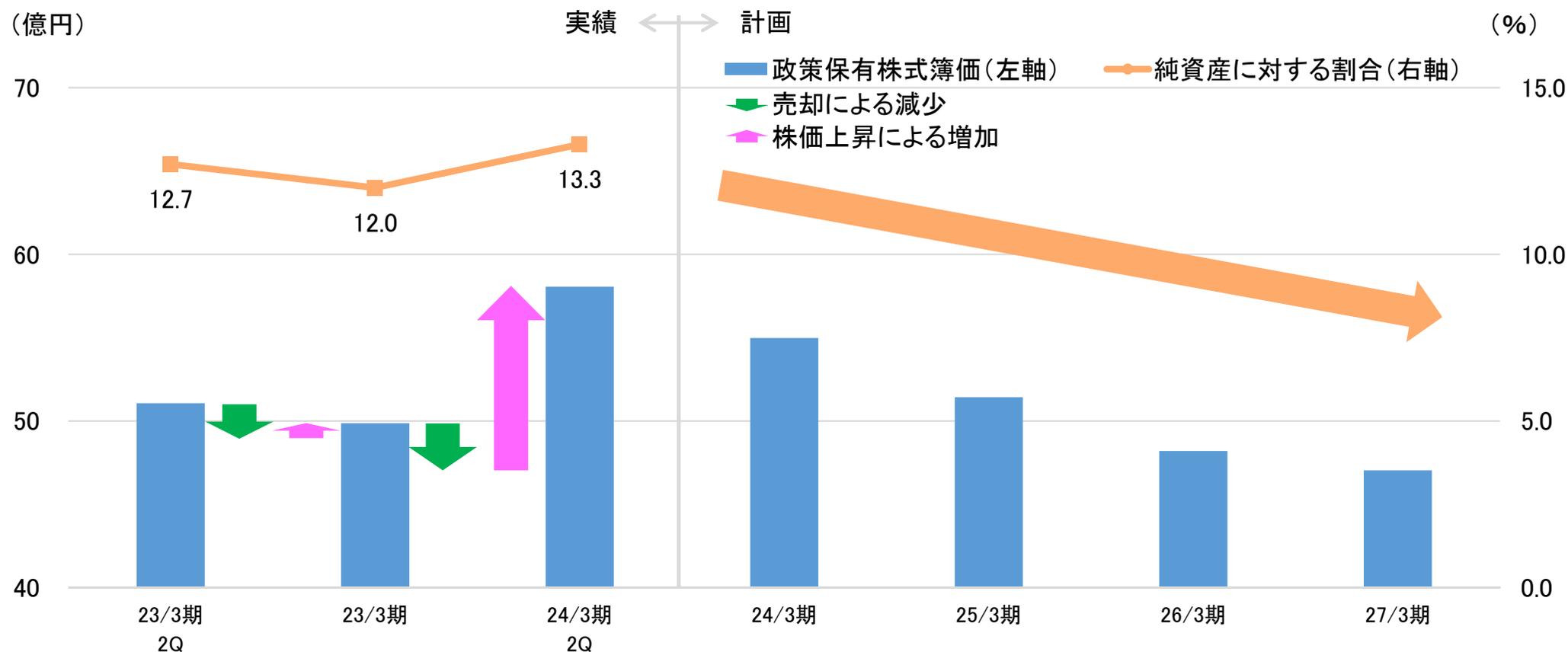


*1 2023年10月1日に普通株式1株につき2株の割合をもって分割、1株当たり配当金は分割考慮後に修正
Copyright© 2023 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

*2 2023年8月9日適時開示内容を踏まえて修正

政策保有株式の縮減方針

中計期間中に政策保有株式簿価の純資産に対する割合を10%以下まで縮減へ



- ◆ 24/3期2Qは簿価2.8億円相当の政策保有株式売却
- ◆ 株価上昇により簿価は上昇しているが、売却を継続して純資産に対する割合を縮減へ

ESG・SDGsへの取り組み(1)

グループとしてのESG・SDGsへの取り組み

自然災害に鋼構造スペシャリスト集団として対応

- ◆ 阪神淡路大震災・六甲道駅
-2年掛かるとされた復旧作業を74日で実現
- ◆ 東日本大震災・東北新幹線
-新幹線高架橋の横ずれ3か月で復旧
- ◆ 熊本地震・熊本城飯田丸五階櫓倒壊防止装備
-アーム式支保工で倒壊防止

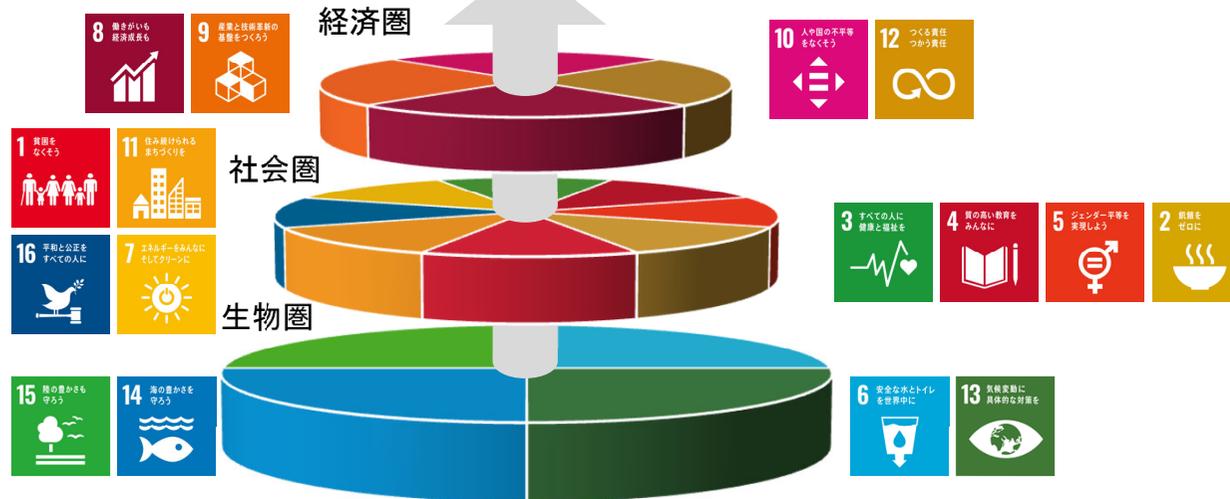
人材育成・ダイバーシティ推進

- ◆ 女性活躍の推進
-溶接工・設計職などで女性社員活躍を積極支援
-ライン部長など女性社員の幹部積極登用
- ◆ 社員の働きやすい職場づくり
-介護等による一時退職制度と、職場復帰を促す支援制度を運用
(退職前に準ずる職能評価で復帰可能)
- ◆ 社員の能力開発支援
-博士号、修士の習得奨励のための大学院留学制度



環境への取り組み

- ◆ 松本工場跡地にて太陽光発電
-CO2削減量469,858kg/年
- ◆ 沿岸構造物技術を用いたサンゴ保全
-電気防食によるサンゴ増殖技術を開発



コーポレートガバナンス体制の整備

- ◆ 2021年6月 監査等委員会設置会社へ移行、指名・報酬委員会を設置
- ◆ 2022年6月以降、取締役を7名に減らし、過半数の4名を社外取締役とする体制へ移行

株主・投資家との対話強化

- ◆ 2021年4月 IR室を設置
- ◆ 決算説明会を含め、株主・投資家との対話機会を拡充
- ◆ 投資家との個別対話機会を拡充

ESG・SDGsへの取り組み(2)

グループとしてのSDGsへの取り組み

今年度発刊した「統合報告書2023」において、
グループとしてのESGに関連する20個のマテリアリティを公表



各マテリアリティに基づく具体的な目標とKPI設定のため、
サステナビリティ推進委員会の下に5つの分科会を設置

- ① TCFD賛同表明およびカーボンニュートラル対応分科会
- ② 技術開発・DX促進検討分科会
- ③ 安全・衛生・品質検討分科会
- ④ 社会課題検討分科会
- ⑤ コーポレートガバナンス・コンプライアンス検討分科会



グループとしてのESG・SDGsへの取組体制を強化中

株主・投資家との対話の拡充

統合報告書を発刊



- ◆ 2023/5/22 統合報告書を発刊(ホームページにて公開)
- ◆ 当社グループの財務情報のみならず、価値創造プロセス、強みやマテリアリティなどの非財務情報の開示を拡充
- ◆ 今後は毎年9月頃の公表を予定

Webページのリニューアル



- ◆ 2023/4/3 ホームページを大幅にリニューアル
- ◆ IRやサステナビリティに関する情報開示を大幅に拡充
- ◆ 併せて、当社グループの歴史や実績、強みに関する情報も開示

英文開示の充実化



- ◆ 2023/5/22よりホームページの英語版を開設
- ◆ それに合わせて決算短信、株主総会招集通知、決算説明会資料などの英文開示を開始
- ◆ 今後も継続した英文開示の拡充を検討中

ESG・SDGsへの取り組み(4)

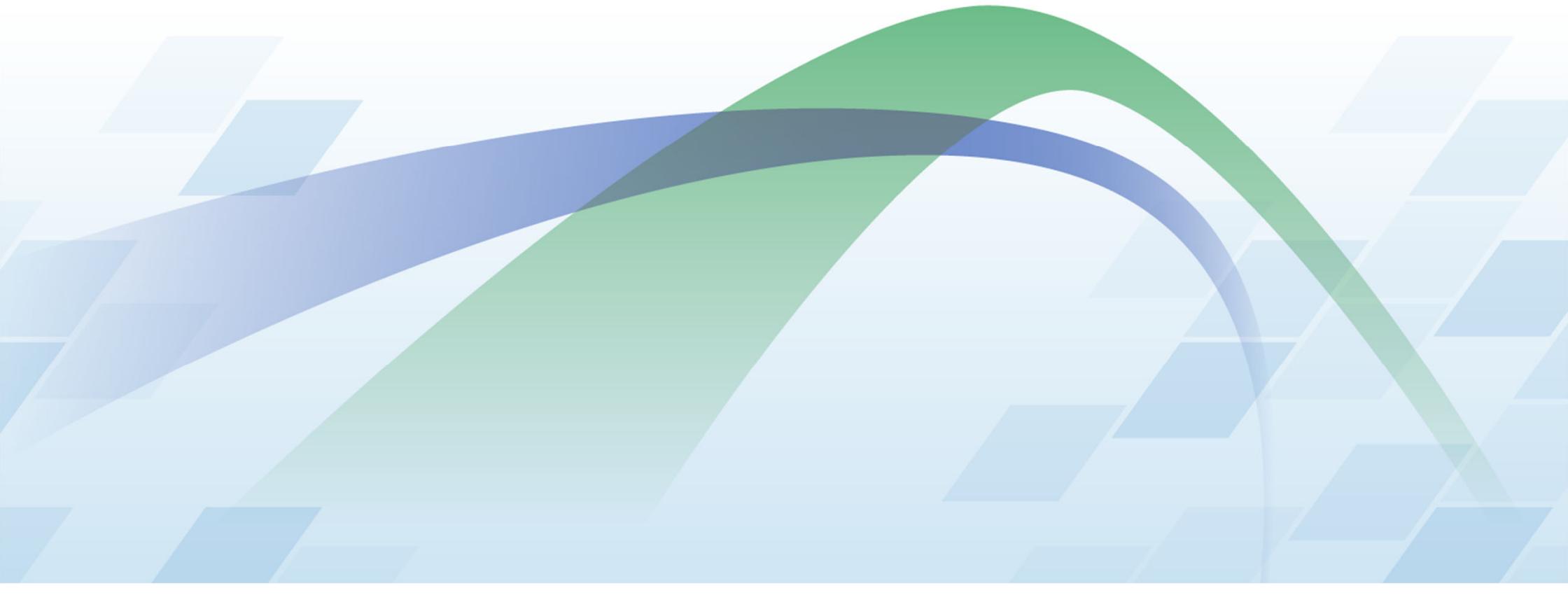
宮地エンジニアリンググループ 創業115周年・設立20周年記念式典開催・記念誌発刊



- ◆ 中長期的な目標に向けて成長を続けていくためにも、改めてこれまでの軌跡を振り返るとともに、仕事に誇りと情熱を持って、他社よりも一歩先を行く会社とするために、多くのステークホルダーの皆様と「共に歩み」「共に成長する」企業として社会貢献していくことの大切さと、更なる飛躍を実現するための強い思いを共有するための場とするために、グループ全社員を集めて記念式典を開催
- ◆ 併せて、グループの成長と苦難の歴史を20個のエピソードで振り返る記念誌を発刊



IV. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた 対応について



資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応(1)



現状評価(2023/8/9開示時点)

2023年3月期ROE 8.9%

⇒中計目標値の10%を下回ったが、株主資本コストと同等以上の資本収益性を達成できている

2023年3月末PBR 0.72倍

⇒継続して1倍を下回っており、当社グループの事業戦略、必要な自己資本の水準、株主還元の方針などに関して、十分な理解が得られていない

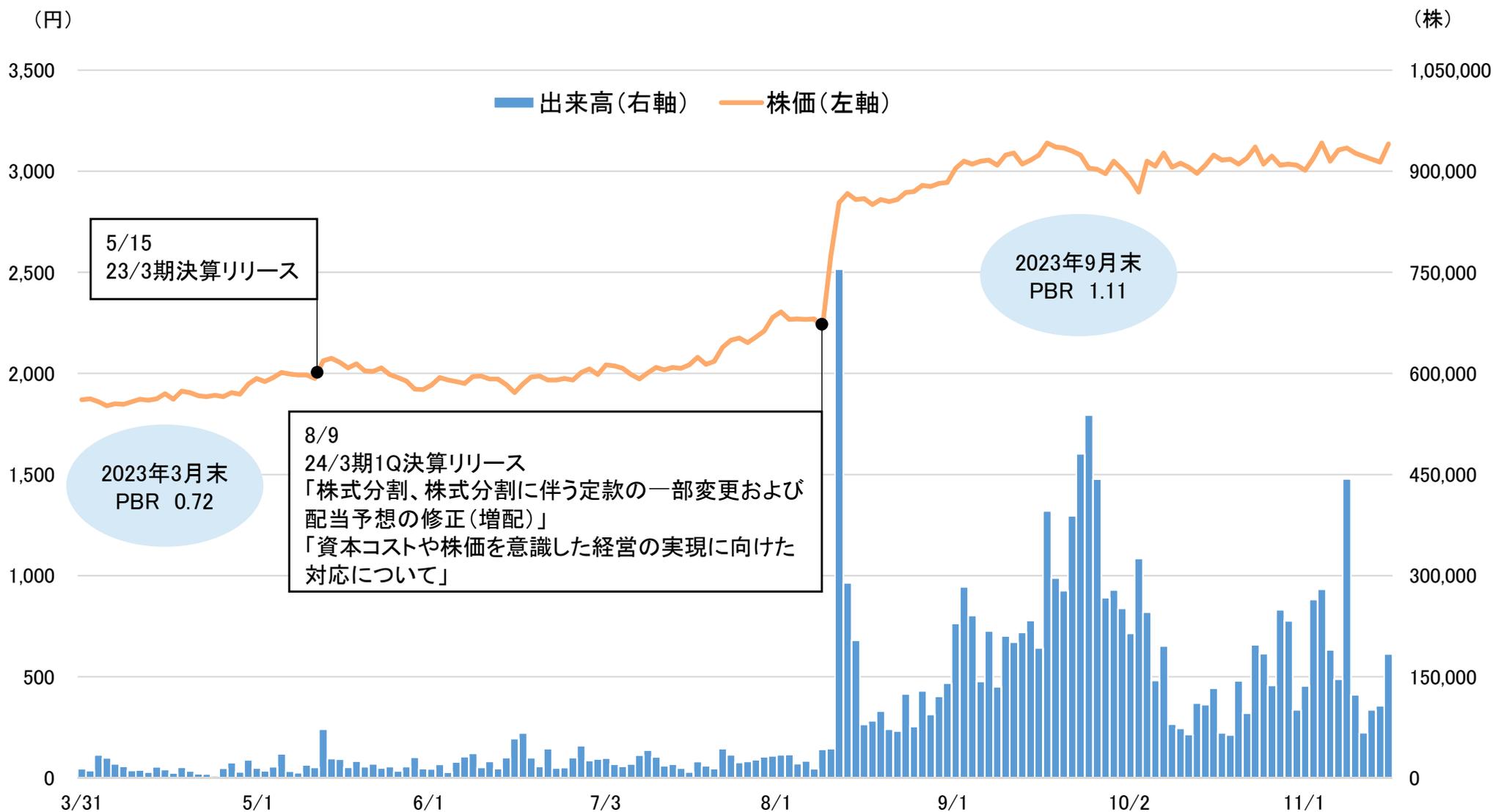
	(百万円)					
	19/3期	20/3期	21/3期	22/3期	23/3期	24/3期(予想)
売上高	52,062	63,841	55,268	58,002	60,279	71,000 ^{*2}
営業利益	4,350	5,241	5,501	5,810	5,127	7,100 ^{*2}
親会社株主に帰属する当期純利益	3,608	2,616	3,808	3,406	3,077	3,600 ^{*2}
自己資本比率	43.8%	43.8%	49.6%	54.0%	56.3%	57.0%
ROE	15.8%	10.4%	13.5%	10.7%	8.9%	9.9%
1株当たり純資産(円) *1	1,790.37	1,922.04	2,214.87	2,452.49	2,608.98	-
期末株価(円) *1	935.0	810.0	1,184.5	1,730.0	1,870.0	-
PBR(倍)	0.52	0.42	0.53	0.71	0.72	-

*1 2023年10月1日に普通株式1株につき2株の割合をもって分割、1株当たり純資産・期末株価は分割考慮後に修正

*2 2023/11/9に修正

株価動向

2023年度の株価・出来高推移



(注)2023年10月1日に普通株式1株につき2株の割合をもって分割、株価・出来高は分割考慮後に修正

株価動向

	2023年3月末		2023年9月末
▪ 株価	: 1,870円	→	3,050円
	(株式分割考慮後に修正)		
▪ PBR	: 0.72倍	→	1.11倍
▪ 時価総額	: 259億円	→	422億円

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応(2)



今後の取り組み

7つの取り組みを通じて、持続的成長と中長期的な企業価値の向上を図り、ROE10%を目標とし、PBR1倍の実現を目指します

(1) 中期経営計画(2022~2026年度)の達成

- ◆ 新設橋梁ビッグプロジェクト、高速道路大規模更新工事、民間の高難度工事などに経営資源をバランス良く投入する計画を着実に推進
- ◆ 工場生産や現場施工の効率化・適正化のための投資や、新規事業開発と総合エンジニアリング機能強化のために中期経営計画の5年間で総額180~200億円の投資計画を策定し、実施中



第二京阪道路 門真高架橋東(鋼上部工)設計・工事

(2) 積極的なIR活動の実施

- ◆ 決算説明会、1on1ミーティング、見学会などを実施し、投資家の皆様から当社グループへの理解を深めていただくよう努める
- ◆ 英文サイトを開設し、株主総会招集通知や決算短信をはじめとした適時開示資料の英文開示を実施
- ◆ 2023年3月期から作成を開始した統合報告書は、毎年内容を更新



2023/10/16 日本経済新聞広告

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応(3) 宮地エンジニアリンググループ株式会社

今後の取り組み

(3) 自己株式取得について	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 政策保有株式縮減による放出など特殊な事情がある場合には、自己株式取得を検討
(4) 株式分割の実施	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 2023年10月1日を効力発生日として当社普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を実施
(5) 配当政策の見直し(資本効率を意識した機動的な株主還元の実施)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 中期経営計画の目標であるROE10%の達成に向けて、資本効率にも十分留意して自己資本の水準を適切にコントロールする。持続的成長のための成長投資、一定の資本拡充など、バランスの良い資本政策を進めることを基本とする ◆ 事業特性上、事故リスク、自然災害リスクを踏まえ、持続的成長を担保するために必要な自己資本は月商の7カ月分(年間売上高の60%)程度であると考え、目標とする自己資本比率を55%とする ◆ 総還元性向60%を目安として業績に応じた機動的な株主還元を実施し、自己資本の水準を適切にコントロールする ◆ 総還元性向の目安60%の考えに基づき、2024年3月期の1株当たり配当予想を本年5月15日公表の配当性向35%相当額から、60%相当額に増額

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応(4)



今後の取り組み

(6) 当社設立20周年記念クオカードの進呈

- ◆ 当社は本年9月をもって20周年の節目を迎え、株主の皆様の日頃のご支援にお応えするため、記念配当に加え、2023年9月30日の最終の株主名簿に記録された単元株をご所有の株主の皆様へ、当社設立20周年記念クオカードを進呈



クオカードデザイン

(7) 政策保有株式の縮減

- ◆ 保有意義が不十分であると判断した政策保有株式については保有先企業との対話などを踏まえたうえで縮減する。中期経営計画(2022~2026年度)の期間中の早期に、連結純資産に対する政策保有株式の帳簿価額の割合を10%以下とする方針

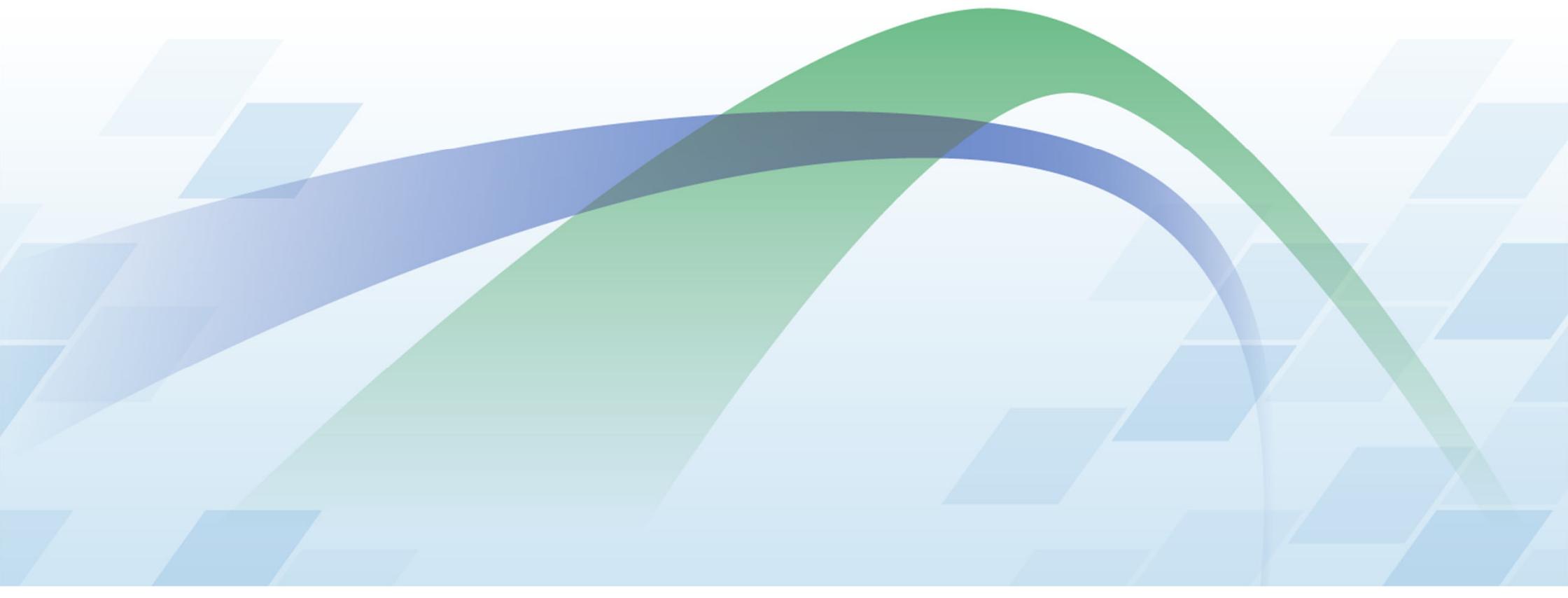
◆ 将来見通しに関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

◆ IRに関するお問合せ先

宮地エンジニアリンググループ株式会社
グループ企画管理本部 瀬戸井、遠藤、平岡
〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町9番19号
TEL 03-5649-0111
E-mail meg.IR@miyaji-eng.co.jp

V. Appendix



<宮地エンジニアリンググループの経営理念>

橋梁、建築、沿岸構造物等の
社会インフラの建設、維持・補修の事業を通じ、
豊かな国土と明るい社会創りに貢献する

宮地エンジニアリンググループについて(2/4)

当社グループの事業会社である宮地エンジニアリングとエム・エムブリッジは、国土交通省、高速道路会社等の官公庁から発注される橋梁の製作・施工を主力事業としております



発注者の発注枠内で経営していく受注産業であり、
その発注量は道路インフラ投資への官公庁の予算に左右されます

公共事業の受注は入札で決まるため、計画的に受注をする事が出来ない



受注を平準化して計画生産を行う事が難しく、損益に山谷が発生することがあります

◆ 主力の新設橋梁事業では、

高度成長期の橋梁技術発展に大きく貢献した首都高速の江戸橋ジャンクションに始まり、本州と九州を結ぶ関門大橋や明石海峡大橋をはじめとする多くの本州四国連絡橋、東日本大震災復興のシンボルである気仙沼湾横断橋、東京湾でも特に夜景が美しい東京ゲートブリッジ・レインボーブリッジ・横浜ベイブリッジ等、名だたる長大橋の設計・施工技術の実績があります

◆ 新幹線や鉄道上に架かる難易度の高い橋梁建設工事では、

長年にわたり培ってきた高い技術力と専門の職人集団の技能を活かした現場安全施工で高い評価と絶大なる信頼をいただいております

◆ 「特殊建築物の施工」および「沿岸構造物の設計・製作技術」は実績に基づいた

高い技術力が要求され、当社グループ以外で対応できる会社は限定されています

◆ 今後も継続して

7兆円規模と言われている高速道路のリニューアルプロジェクト、

事業規模5,000億円の大阪湾岸道路西伸部の長大橋梁を始め、

第二関門大橋(下関北九州道路)などの高難度のビッグプロジェクト、

更に、首都圏のターミナル駅の再開発事業、連続立体交差事業や高架化、

特殊建築物の施工および大規模沿岸構造物などが計画されており、

当社グループにとって更なる飛躍への絶好の事業環境と捉えております



会社概要

本店所在地	東京都中央区日本橋富沢町9番19号
代表者	代表取締役社長 青田 重利
創業	1908年9月
資本金	30億円
連結売上高	603億円 (2023/3期)



宮地エンジニアリンググループ株式会社

100%出資(連結)



宮地エンジニアリング株式会社 (MEC)

橋梁・鉄骨その他鋼構造物の設計、製作、架設、据付、維持補修、
プレストレストコンクリートの設計、製作並びに土木工事の施工、
工事管理、鉄骨・鉄塔・大空間構造物組立

51%出資(連結)



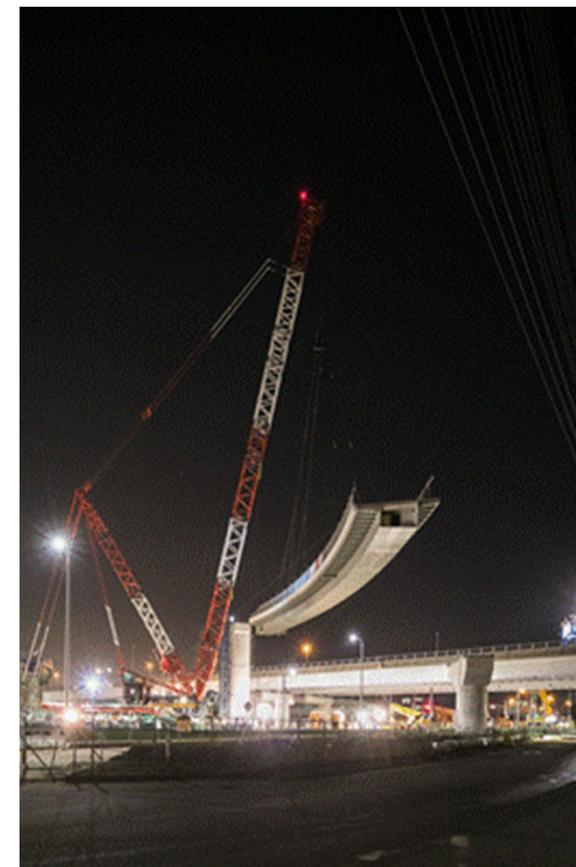
エム・エムブリッジ株式会社 (MMB)

橋梁、沿岸構造物等の設計、製造、据付、販売 および修理

100%出資(非連結)

株式会社エム・ジー・コーポレーション

鋼構造物の設計・製作・架設、ボルト・溶接材料等の販売、
人材派遣業務、他



事業所および活動拠点



宮地エンジニアリング(株) 松本発電所



宮地エンジニアリング(株) 栗橋機材センター



エム・エムブリッジ(株) 広島機材センター

エム・エムブリッジ(株) 富山事業所

宮地エンジニアリング(株) 兵庫機材センター

エム・エムブリッジ(株) 本社
宮地エンジニアリング(株) 広島営業所

エム・エムブリッジ(株) 長崎事業所

宮地エンジニアリング(株) 福岡営業所
エム・エムブリッジ(株) 九州営業所

宮地エンジニアリング(株) 札幌営業所

宮地エンジニアリング(株) 仙台営業所
エム・エムブリッジ(株) 東北営業所

エム・エムブリッジ(株) 那須機材センター



宮地エンジニアリング(株) 千葉工場

エム・エムブリッジ(株) 市原工場

(株) エム・ジーコーポレーション 本社

宮地エンジニアリンググループ(株) 本社

宮地エンジニアリング(株) 本社

エム・エムブリッジ(株) 東日本支店

エム・エムブリッジ(株) 横浜営業所

宮地エンジニアリング(株) 名古屋営業所

エム・エムブリッジ(株) 中部営業所

宮地エンジニアリング(株) 関西支社

エム・エムブリッジ(株) 西日本支店

宮地エンジニアリング(株) 沖縄営業所

主なプロジェクト実績(長大橋・道路橋)

■ 過去から脈々と続く高難度のプロジェクト経験により高い技術を蓄積

～1970年代



関門橋(1,068m)

逐次剛結の先端技術で架設

土木学会「田中賞」

1980～90年代



明石海峡大橋(3,991m)

当時、世界一の吊り橋

土木学会「田中賞」

2000年代以降



東京ゲートブリッジ(2,618m)

日本2位のトラス橋

土木学会「田中賞」



首都高速江戸橋JCT

首都高の最難関工事



港大橋

日本一のトラス橋

土木学会「田中賞」



多々羅大橋(1,480m)

日本一の斜張橋

土木学会「田中賞」



有明筑後川大橋

日本初の橋梁形式

土木学会「田中賞」



気仙沼湾横断橋(1,344m)

東日本大震災復興の象徴

土木学会「田中賞」

主なプロジェクト実績(鉄道関連・大空間・特殊建築物・沿岸構造物)

- 高難度の施工技術を要する鉄道橋建設に数多く参画
- 大空間・特殊建築物においても、東京タワーをはじめ多くのプロジェクト経験を有しノウハウを蓄積

～1970年代

1980～90年代

2000年代以降

橋梁(鉄道関連)



東海道新幹線江川橋梁



東海道新幹線箕輪架道橋



東海道新幹線50K900付近さがみ縦貫道路16号橋

大空間・特殊建築物



東京タワー(333m)



神戸ポートタワー(108m)



ナゴヤドーム



東京スカイツリー(634m)

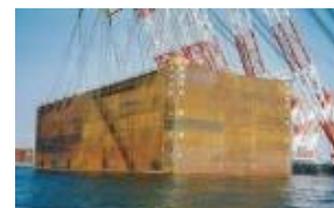


札幌ドーム



東京アクアティクスセンター

沿岸構造物



南本牧鋼製ケーソン



東京港海の森トンネル沈埋函

大規模案件・高難度案件への参画を可能とさせる業界屈指の総合力

設計・製作

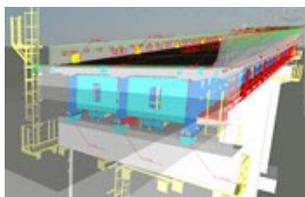
計画・架設

数多くのプロジェクト実績に裏打ちされた確固たる技術力

大規模プロジェクトに投入可能な人的リソース

経営資源を質・量共に
揃える当社グループ
だからこそ持ち得る強み

業界トップクラスの詳細設計力および技術開発力
ICT関連会社と協力して、Click3D、CIM-GIRDER、CIM-SLABの3種類のCIMシステム等を開発



戦略・特殊機材の保有

業界屈指の手延べ機保有量
日本一のアーチ橋を架設した
ケーブルクレーン設備

機材を保有していること
だけでなく
扱える人材の多さと
技術の高さが当社の強み

高技能集団との連携

高度な技術力を有する
特殊職集団との連携は
事業成立に必要不可欠

例) ケーブルクレーン

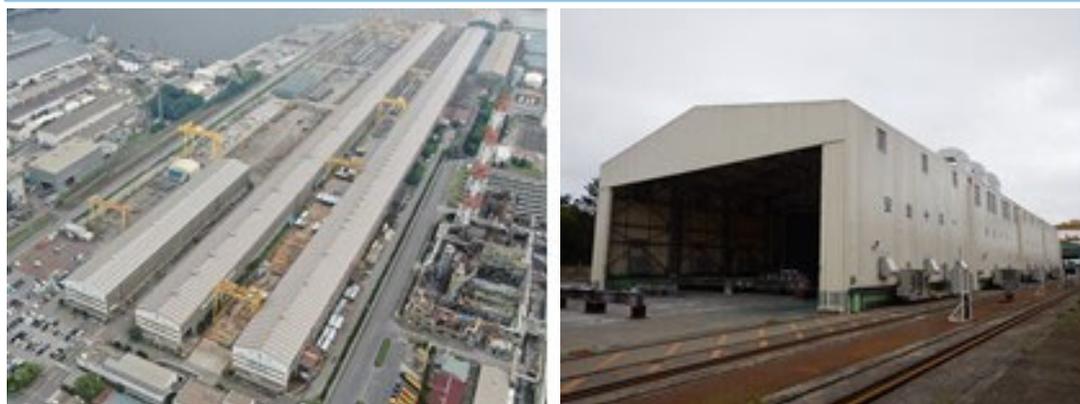


急峻な山間部等で通常クレーンの侵入が困難な場所で使用



職人の外部ネットワークにより
高度な工事に対応するリソースを確保

自社工場保有が可能とさせる製作能力



海上長大橋の大ブロック製作対応も可能
業界有数の生産能力を保有

当社が建設に参加した巨大構造物 I

本州四国連絡橋



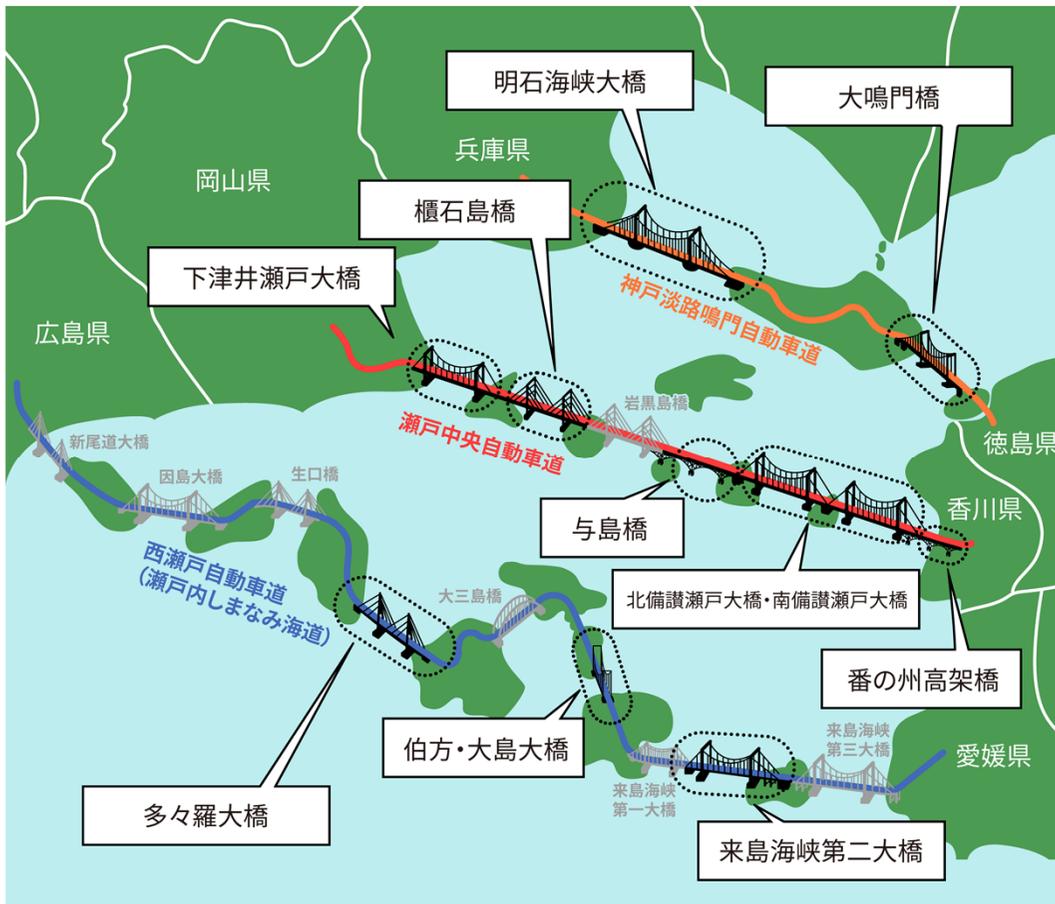
下津井瀬戸大橋



多々羅大橋



来島海峡第二大橋



明石海峡大橋



大鳴門橋



北備讃瀬戸大橋・南備讃瀬戸大橋

当社が建設に参加した巨大構造物Ⅱ

タワー



東京スカイツリー



東京タワー



福岡タワー



水戸芸術館シンボルタワー



神戸ポートタワー



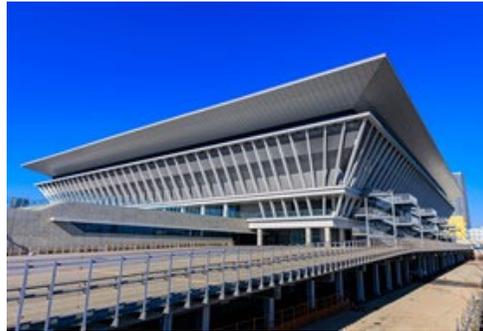
大分グローバルタワー

当社が建設に参加した巨大構造物Ⅲ

ドーム等



エスコンフィールドHOKKAIDO



東京アクアティクスセンター



福岡PayPayドーム



レゾナックドーム大分



キューアンドエースタジアムみやぎ



バンテリンドーム ナゴヤ



大館樹海ドーム



札幌ドーム



日産スタジアム